

# 和歌山県立医科大学附属病院 循環器内科

## 当科の特徴

当科には循環器専門医が15名、内科専門医が6名、インターベンション専門医が1名、不整脈専門医が1名、超音波専門医が3名、TAVR指導医1名、成人先天性心疾患専門医1名在籍しており、指導体制が整っています。また、設備として最新の血管内超音波装置や光干渉断層法装置などをすでに導入しており、また、県内では大動脈弁狭窄症に対する経皮的動脈弁置換術の唯一の認定施設であります。さらに、リードレスペースメーカーや心房細動対するクライオアブレーションなどの最新治療を導入しており、最先端医療を経験できるほか、連携病院では循環器疾患の症例が豊富で循環器専門医を目指し包括的に研修できるよう配慮しております。また、和歌山ろうさい病院、紀南病院、新宮市立医療センター、橋本市民病院などの連携病院では急性心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患に対して年間約200例程度の経皮的冠動脈インター

ベンションを行っており、いずれの連携施設でも研修を行う上で十分な経験が得られます。

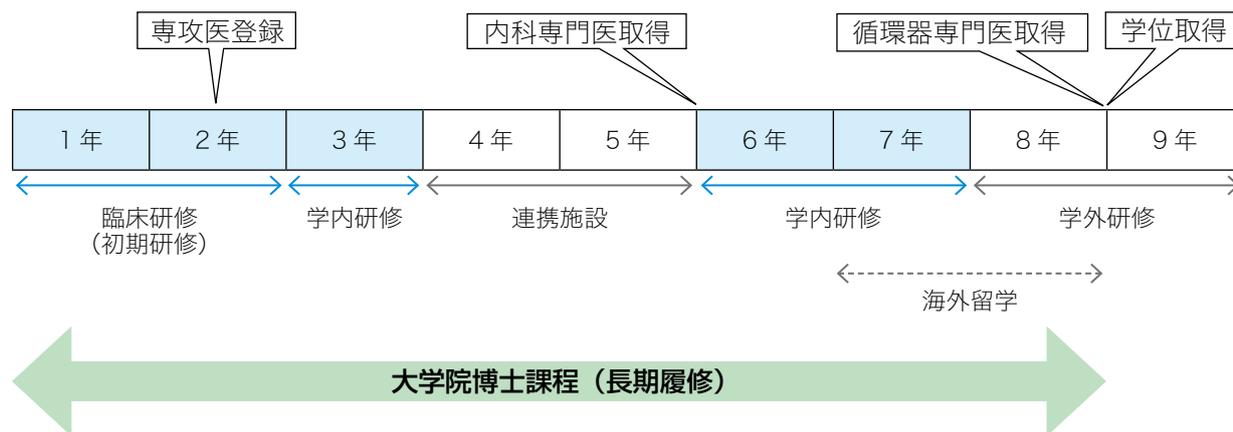
内科専門医取得後、循環器専門医を目指して研修を続け、並行して日本心血管インターベンション学会認定専門医、日本不整脈学会認定専門医などを目指すことも可能です。なお、学位取得希望者は大学院に入学して基礎研究・臨床研究を行う事ができ、学位を取得できます。



## ローテーション例

### 一般枠コース

※ □ は学内研修



一般枠医師については原則プログラムのローテーションに従って研修を行います。

詳細は卒後臨床研修センター HP (<http://www.wakayama-med.ac.jp/med/sotugo/koki/koki-program.html>) に載っています

内科専門医取得後、循環器専門医を目指して研修を続けていきます。循環器専門研修の内、インターベンションや不整脈の研修に比重を置く期間(1年もしくは2年)を設けることで最短で卒後9年目に日本心血管インターベンション学会認定専門医、日本不整脈学会認定専門医などの取得を目指すことが可能です。希望により循環器専門医取得後に海外留学をすることも可能です。

## ローテーション例

## 県民医療枠コース

※ □ は学内研修

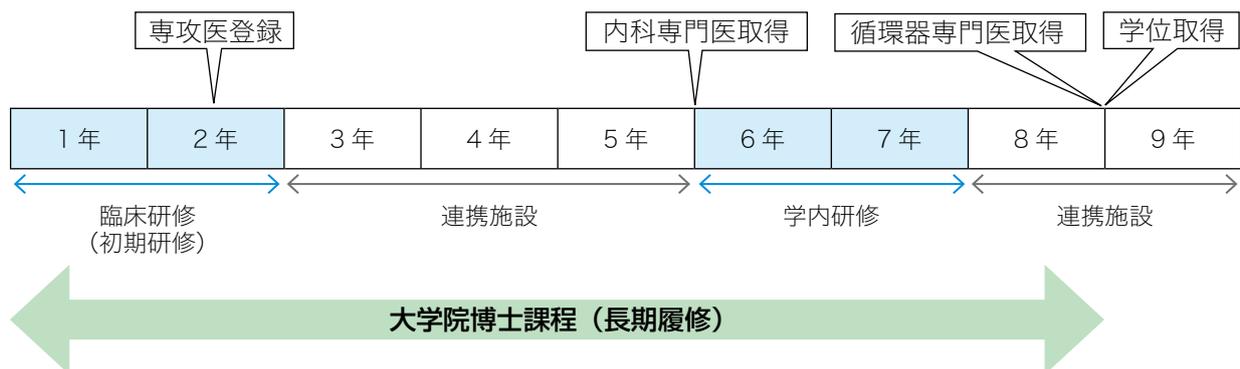


県民医療枠コースでは3年目は和歌山県立医科大学附属病院で研修を行います。4年目、5年目は地域中核病院で研修を行い、6、7年目には大学に戻ります。通常3年の内科専門研修をやや余裕を持って4年で修了し、循環器専門研修を3年で修了します。8、9年目には再度地域中核病院で後輩の指導を行いながら、地域中核病院で活躍できる医師を目指します。また、希望者は大学院に入学し、9年目には学位を取得することも可能です。また、希望により10年目以降海外留学も可能です。循環器全般の研修をしながらインターベンションや不整脈の研修に比重を置くことで10年目に日本心血管インターベンション学会認定専門医、日本不整脈学会認定専門医を取得することが可能です。

## ローテーション例

## 地域医療枠コース

※ □ は学内研修



地域医療枠コースでは臨床研修（初期研修）の後、3年から5年目まではへき地医療拠点病院等で内科専門研修を行い内科専門医取得を目指します。3年間の内科専門研修後、6、7年目には大学に戻り連続して循環器専門研修を開始します。8、9年目にはへき地医療拠点病院等で後輩の指導にあたりながら循環器内科のみならず、総合医や家庭医としてのスキルを磨いていきます。なお、循環器専門医は9年目に取得することができます。また、希望により9年目以降海外留学も可能です。

## 研修目標

循環器医師としての人格を保ち、患者中心の全人的な診療姿勢、探求心をもって自己学習する視点を保持し、安全安心な医療の提供ができる人材の育成を研修目標とする。

## 経験目標

循環器専門医研修の開始にあたり、日本循環器学会では研修での達成項目や経験すべき症例数を記載した「循環器専門医研修カリキュラム」を作成しています。循環器専門医取得のため、当科においても「循環器専門医研修カリキュラム」に記載されている経験すべき症例数を経験目標とします。この中には、地域医療の経験や学術活動を含んでいます。学術活動では、循環器系学術集会・研究会において第一著者として3年間に3回以上発表し、1つ以上の論文を作成することを目標とします。

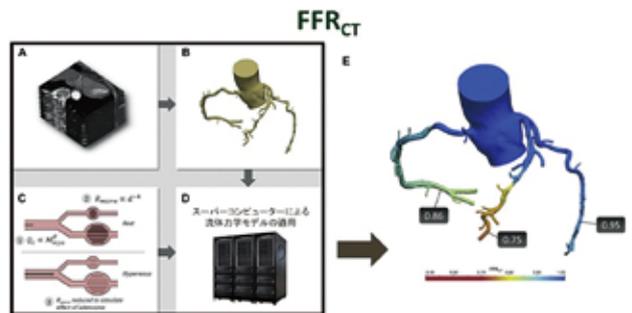
## 教授からのメッセージ



### 赤坂 隆史 教授

循環器内科を希望される方々や将来の専門科を悩まれている方々に一先輩としてアドバイスさせていただきます。まず、将来の自分の専門を決定するに当

たっては、純粋に「自分の好きな科・興味のある科」を選ぶことです。選択する科が決まったら、次に大切なことは、誰のもとで（どの指導者のもとで）どの施設で研修するかが重要です。指導者が技術的にも学問的にも実力があり、理解力・包容力のある場合、本来ならできない研修や技術習得、教育体験などをすることが可能です。自分だけなら、あるいは環境が悪い場合なら1つや2つしか達成できないことが、優秀な指導者のもとでは10倍も20倍も仕事ができます。さて、当科では、当然のことですが「自分が病気になったときに安心して診療してもらえる医師」を輩出することを基本としています。特殊な領域だけに特化するのではなく、循環器疾患一般を身につけること、general cardiologistとなることを基本としております。循環器専門研修を修了し循環器専門医取得後は、カテーテルインターベンション・不整脈・非侵襲的診療など本人の希望に沿った指導をしております。ま



た、希望によっては研究・国内・海外留学・地域医療など個人の要望に沿った指導体制を考えております。

循環器疾患や臨床研究・海外留学に興味のある方は是非当科のプログラムにご参加ください。

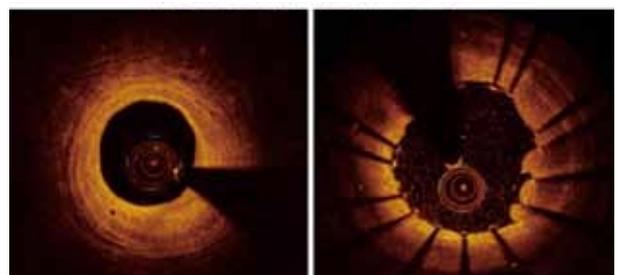
学会参加風景 (APSC2018)



NIRS-IVUS



光干渉断層法 (OCT)



## 当科で取得可能な専門医と指導体制

研修施設	循環器専門医	内科専門医	インターベンション 専門医	不整脈専門医	超音波専門医
和歌山県立医科大学附属病院	14名	10名	1名	1名	3名
和歌山ろうさい病院	3名	1名	0名	0名	0名
済生会和歌山病院	2名	1名	0名	0名	0名
海南医療センター	2名	2名	0名	0名	0名
公立那賀病院	2名	1名	0名	0名	0名
新宮市立医療センター	5名	4名	1名	0名	0名
橋本市民病院	2名	0名	0名	0名	0名
ひだか病院	5名	2名	0名	1名	0名
有田市立病院	1名	0名	0名	0名	0名
紀南病院	2名	1名	0名	0名	0名
国立病院機構南和歌山医療センター	1名	1名	0名	0名	0名

当科の特筆すべき点は、ハーバード大学、コロンビア大学、カリフォルニア大学、英国インペリアルカレッジ等の超一流大学や Mayo Clinic、Medstar Washington Hospital Center、New York Mount Sinai Hospital 等の大規模病院に多数の若手医師が留学し、輝かしい業績を挙げてきた事です。また、各研修連携施設共に、臨床能力を向上させ得る独自の研修プログラムを作成しております。それらのプログラムを着実に遂行することで、循環器専門医に必要な臨床能力および知識を修得し、循環器専門医資格の取得を可能とします。卒後9年後以降は当科における中心医師として活躍の場を提供する予定です。さらに日本心血管インターベンション学会認定専門医、日本不整脈学会認定専門医などは循環器専門医取得後に目指すことが可能です。

